

安全・安心なまちを目指して

「安全・安心なまちづくり」は、市民共通の願いであり、市の最優先課題でもあります。市では、この安全・安心まちづくりを真に実効性のあるものにするため、安全・安心まちづくりに関する知識と経験を備えた指導員を配置し、相談や助言を行っています。



指導員 武井 光明さん(63歳)



指導員 篠原 岩夫さん(63歳)



▲巡回をする指導員

安全・安心まちづくり指導員

本市では、防災対策の充実とともに安全・安心まちづくりの推進体制を図るため、平成19年7月から防災安全対策室を設置しているところですが、この安全・安心まちづくりを真に実効性のあるものにするともに、暴力団などからの不当要求に負けない強い組織と地域をつくるため安全・安心まちづくりに関する知識と経験を備えた指導員(警察官OB)を配置しています。

業務内容

指導員の主な業務は、「田川市安全・安心まちづくり相談センター」(総務防災課内)で、市民企業および職員からの相談受付、指導、助言を行っています。また、企業や市の各施設、公共的施設の巡回や訪問を行い、不当要求行為に関する情報収集、意見交換、アドバイスなどを行っています。

指導員のある1日

指導員の1日を取材しました。

8時30分 行方不明高齢者についての相談
城山団地周辺、鎮西中学校、東町公民館周辺巡回

9時30分～10時30分 市立病院
一人は入り口、待合室付近で待機。もう一人は各病棟を巡回

10時45分 市内企業で相談業務

13時30分 田川署で行方不明高齢者の打ち合わせ

15時 市立病院

16時30分 帰庁

朝一番に、市役所職員から相談が寄せられていました。移動中も、何度も声をかけられていた指導員。市内の巡回は、不審者が出たという情報があるところや地域の要

請があるところなどを毎日巡回しているそうです。

また、市立病院での巡回は効果があがっており、以前はトラブルなどで診療が中断されることもありました。今では以前に比べ少なくになりました。

巡回中も出会った人たちに気軽に声をかけていく指導員。「わたしたちの姿を見せることが大切なんです」と語ります。犯罪の抑止効果とともに働く人や地域の人に安心感を与えるそうです。

田川市安全・安心まちづくり相談センターでは、市民や企業からの相談を受け付けています。気軽にご利用ください。

▼相談・問い合わせ 総務防災課 防災安全対策室(☎44・2000内線319)

みんなて 住みやすいまちをつくらう

地域を犯罪から守ろう

伊加利地区

伊加利地区では、今年1月から青パトによる巡回を行っています。伊加利地区では、以前から空き巣などが発生していたので、市生涯学習課の青パトを活用して巡回を行うことを決めました。

地域住民に親しんでもらえるよう「青パトいかり隊(児島孝司隊長)」と名付け、毎週月曜日に学校の下校時と夜の2回、2人1組で伊加利から城山団地まで約1時間の巡回を行っています。

児島さんは、「青パトは、地域ぐるみで安全で安心な地域を作る活動の一環。ほかに通学時の見守り、声かけ、不法投棄などの監視なども行っています。住みやすい伊加利地区にしたい」と話していました。



▲巡回に出発する原田孝則さん(右)と熊谷多菜行さん

少しでもおかしいと感じたら 警察に一報を

田川警察署

市内の犯罪発生状況は、「自販機ねらい」、「車上ねらい」、「自転車盗・オートバイ盗」が多発しています。

被害に遭わないためには、「自販機ねらい」に対しては、「現金を回収する」「扉を捕獲する」「不審者を見かけたら通報する」。「車上ねらい」に対しては、「明るい駐車場に駐車する」「車内に貴重品を置かない」「短時間でも車を離れるときは、必ず施錠する」など、「自転車盗・オートバイ盗」については、「柱などにくりつけ」「2個以上の丈夫な鍵をかける」「少しの時間でも離れるときは、必ず鍵をかける」などの防犯策を行います。

また、5月以降、コンビニ店などを対象とした強盗事件が管内で5件立て続けに起こっています。田川署では、7月23日に特別警戒部隊「ナイトホーク隊」を編成し、深夜から未明にかけて管内34のコンビニ店の見回りを行っています。ナイトホーク隊長を務める難波和夫生活安全課長は、「少しでもおかしいと感じたら、警察に連絡してほしい。また、事件に関する情報があれば寄せてほしい」と協力を呼びかけています。

●7月中の犯罪発生状況(田川市)

車上ねらい	自転車盗	オートバイ盗	自販機ねらい	空き巣など
8件	7件	9件	15件	4件
前年同月比+3件	前年同月比+3件	前年同月比+2件	前年同月比+15件	前年同月比-5件

田川地区から暴力団排除を

8月10日、青少年文化ホールで田川地区暴力団等追放総決起大会が行われました。これは、田川地区1市6町1村でつくる「田川地区暴力団等総合対策推進協議会」が主催したもので、各種関係団体・官公庁などから約450人が参加し、暴力団追放の決意を新たにしました。

前田川警察署長で県警暴力団対策部の花田利夫副部長が、県下の暴力団情勢として、約180組織あり、構成員・準構成員を合わせ約3470人が活動していることなどを説明。「市民と暴力団が共存・共栄する時代ではない。暴力団を容認しない風土づくりが大切です」と話しました。

続いて、元佐賀県警生活安全部長の丸山保武さんが、警察と行政・地域住民が連携して、同県みやま町に暴力団事務所が進出するのを阻止した事例を紹介。

最後に、東鷹高校3年の吉田由里絵さんと2年の塚本友也さんが「平穏で明るく住みよい田川地区の実現に邁進します」と力強く暴力団追放宣言を行い、参加者全員で「暴力追放、がんばろう」とシュプレヒコールし、安全・安心なまちづくりを誓いました。

